

令和4年度 第1回周南市文化財審議会

日時：令和4年8月9日（火）13時30分から

会場：新南陽ふれあいセンター 2階 大会議室

1、あいさつ

2、新委員紹介

3、会長、副会長の互選

4、協議、報告

○文化財の調査および整備について

【協議】

(1) 新南陽民俗資料展示室の移設について・・・資料1

【報告】

・国指定天然記念物「大玉スギ」の樹勢回復について・・・資料2

・県指定文化財「山田家本屋」の茅葺屋根改修について・・・資料3

・国登録文化財「漢陽寺庭園」「川崎観音堂（本堂・山門・門柱）」・・・資料4

5、その他

6、企画展「新南陽の人々の暮らしと海とのつながり」観覧

7、県指定文化財「山田家本屋」視察

(仮称) 新南陽民俗資料館 作業進捗と今後の予定

資料 1-1

現在	旧若山保育園内、福川の旧展示室の資料整理、移動先分類
10月1日	福川南会館（新施設）の引き渡し、工事開始
1月31日	工事完了、資料の搬入
年度末	周南市文化財審議会（2回目）にて視察
6～7月頃	リニューアルオープン

旧若山保育園における整理作業の状況



○施設管理に関すること

①収蔵庫（施設）の確保について

各部屋ごとに収納ケース×50 個程度収納可能（館内全 200 ケース可能）



大型の民具などで福川南会館に収蔵できない資料は、港町庁舎（埋蔵文化財整理作業、収蔵場所）での収蔵を検討している。（試算で100㎡程度必要）

②バリアフリー化について

バリアフリー化を目的に第2展示室（和室）の約半分をフローリング化する工事を予定している。また、通路の幅は広く確保することとしている。

転用施設であり、エレベーター等の設備はない。

③資料の保存環境（空調、照明）

1階の一部で、空調設備の不具合がある。来館者への配慮、資料保存の観点から、対応を検討したい。

照明については、LED化の予定はない。窓と資料の配置によって、窓へのUVカットフィルム貼付は検討したい。

④施設のセキュリティ、管理形態

夜間は機械警備。

重要物品（竹島出土品レプリカ 等）は、展示ケース内で展示する。

職員は、常時2名体制となるよう検討したい。

○コンセプト、展示プランに関すること

①展示ケース、パネル、キャプション等の準備

展示ケースを4台準備した。

パネル、キャプション等については、旧展示施設のものを活用しつつ、会計年度任用職員が新調する。

②企画展に力点を

今後も、2階学習室（講座室）を中心に、企画展を開催していく。

企画の内容は、地域（新南陽）に根差した内容、小・中学生の学びにつながる内容を中心に展開していく。

○その他

- ・パンフレットを作成した広報活動
- ・第2展示室の下駄箱準備
- ・全般的に「道具」は「用具」と表現の方が柔らかく、広範囲に該当。
- ・講義室の呼称は、学習室が良い。
- ・学習室における視聴覚機器、図書の設定
- ・使用料は無料

○事業の概要

①事業内容

- ・ 樹勢回復のための基本的な措置：囲柵外の土壌改良及び施肥、着生植物の除去
- ・ ステンレスバンドの長さの延長：地上から 20.3 m、23.7 m のバンドを延長
- ・ 亀裂部の措置：劣化したウレタン樹脂の除去、腐朽箇所との除去と防菌処理
- ・ 露出根の措置：浮き根となって露出した根の腐朽箇所の除去と防菌処理
- ・ 樹幹の措置：樹木危険度診断として、空洞化診断を実施

- ②実施期間 令和 4 年 1 月 8 日～3 月 7 日
- ③施工業者 特定非営利活動法人山口県樹木医会
- ④その他 国・県・市の補助事業として実施



【施工前】令和 9 年度に設置したステンレスバンドは、樹幹の成長により食い込んでいる



【施工後】成長に合わせてステンレスバンドの長さを延長。バンドの下にはゴムを配置し、樹幹を保護している

○今後の検討事項

①山口県樹木医会からの報告

- ・ 樹幹への負担増加を踏まえ、地上高 25 m に ステンレスバンド増設 を検討すべき
- ・ 落枝の危険があることから、南側の太枝 3 本の切除 を検討すべき
- ・ 空洞率 8.2% との診断が出たことから、倒木対策として支柱設置 を検討すべき



今後、定期的に幹や枝の状況を観察する必要がある

②今後の対応

この報告について南委員に意見を求めたところ、「妥当である。実施すべき」と回答をいただいた。

これら検討事項を早期に実現するため、所有者（宗教法人八幡宮）の意向を踏まえて山口県樹木医会と協議を行った。現在、複数案を提示されており、大玉スギに対する影響やコスト面などから、多面的な検討を行っている。また、併せて、専門家による継続的な状態確認の実施も検討する。

○事業の概要

①事業内容

- ・工法：全面差茅
※状態の悪い茅を取り除き、新しい茅に差し替える作業を屋根全面に実施。
- ・谷板金：取替え
- ・棟：茅積替え
- ・棟飾り：部分補修 → 新規作成
※当初、補修対応を予定していたが、予想以上に劣化が進んでいることが判明した。
公益財団法人文化財建造物保存技術協会（文建協）や県の意見を踏まえ、改修前の形状を維持しつつ、新規作成した（改修前の棟飾りは、平成5年度に作成されたもの）。
- ・その他：熨斗瓦への水切板金取付け、潜り門の瓦取替え（一部）と漆喰補修、外門の控え柱の脚部根継ぎ補修、畳の取替え（一部）

②実施期間 令和4年3月14日～7月29日 [当初の予定から1週間工期延長]

③施工業者 協和建設工業株式会社

④その他 県の補助事業として実施



【R4.3】文建協の技術指導は、茅葺職人立ち会いのもと実施。指導通り作業が行われたか、後日、改めて確認を受けた



【R4.6】千木は形状を維持しつつ新調。文建協の助言により、劣化防止を目的に飛棟上部には板金加工を実施した

○市民への啓発活動

①工事見学会

市民共有の財産である文化財の周知や保護意識を高めること等を目的に、見学会を実施（R4.5.29）。茅葺作業を間近で見ることができる貴重な体験となった。

②オープニングイベント

再オープンの前日、地域の子供たちを対象に子供向け説明会と昔の遊びイベントを開催（R4.8.1）。



【R4.5】工事見学会は2回に分けて実施。合計で30人の市民が参加した

◇令和3年10月11日官報告示（6月18日答申）

◇登録基準：造園文化の発展に寄与しているもの

◇概要：昭和40年代に作庭家の重森三玲（1896～1975）が禅宗寺院に造った庭園。

水の流れを主体とする「曲水の庭」、枯山水の「地蔵遊化の庭」、石組と池泉を中心とする「九山八海の庭」など、大きさや様式の異なる複数の庭園から成る。作庭家重森三玲がさまざまな様式、主題、意匠で造った複数の庭園から構成され、造園文化の発展に寄与した意義深い事例である。



（曲水の庭）



（地蔵遊化の庭）



（瀟湘八景の庭）

■川崎観音堂（本堂・山門・門柱）の登録有形文化財登録

◇令和4年2月17日官報告示（令和3年11月19日答申）

◇登録基準：国土の歴史的景観に寄与しているもの

◇概要：元和6年（1620）10月9日に開山した曹洞宗万福寺の観音堂で、大内弘世が定めた周防国三十三観音霊場の第十八番札所として、本尊を平景清の護持仏であった十一面観音菩薩と伝える。

本堂は入母屋造り棧瓦葺き平入り、妻飾り虹梁大瓶束、軒は出組に隅扇垂木、正面向拝は角柱で各所に繰形や彫刻を施し、内部は折上げ格天井とするなど、禅宗様の装飾を丁寧に施す小堂である。山門は下層石造、上層木造の二階建の竜宮門風の鐘楼門で、入母屋造り棧瓦葺とし、全面に花頭窓を配し、内部は格天井とする。門柱は御影石の柱で、柱頭は丸みを帯びた造り出しで繰形を施している。

近隣地域をはじめ、宗派に関係なく、安産祈願のため参拝者が訪れ親しまれている川崎観音堂は、多くの人の目に触れ続けていることで、国土の歴史的景観に寄与している。



（本堂）



（山門）



（門柱）